

〔東日本大震災の被害〕 震災6ヵ月後アンケート結果 保険会社調査

東北6県 法人会会員中心に218社回答、資本金5,000万未満が約83%

順位	被害の内容	%	順位		%
1	停電	88	9	自社の設備損壊	34
2	電話不通	78	10	風評被害	26
3	IT機器利用不能	50	11	道路遮断	24
4	自社の業務停止	49	12	自社の従業員被災	22
5	取引先の業務停止	45	13	自社のIT機器 情報システム損壊	18
6	断水	44			
7	自社の建物損壊	40	14	その他	6
8	顧客の業務停止	35	15	特に被害は受けなかった	2

〔東日本大震災の教訓〕

- ①隣り合わせの2つの銀行で、何もせずただ逃げた方は全員命が助かり、重要物を金庫に入れていた方は全員津波で亡くなった。
- ②女川町佐藤水産の専務佐藤充さんは、中国人実習生20名全員の命を救い、後に亡くなったが、インターネット上で中国全土から賞賛された。

チェック	災害発生以降	%	順位	チェック	%	順位
	社員家族の安全確保と安否確認			電気、燃料、水の確保		
	地域との相互扶助			通信手段の確保		
	救助活動			目標復旧時間の策定		
	被害状況調査			風評被害への対応		
	被害情報の発信、共有					
	対応方針決定					
	顧客、取引先との相互扶助					
	取引先への連絡					
	メーカーへの連絡、指示をあおぐ					
	代替仕入先の紹介					
	二次被害の防止					
	お客様、外国人研修生、市民、社員（ ）の避難誘導					
	優先して継続復旧すべき中核企業の確定					
	事業拠点や生産設備仕入品調達等の代替策を用意する					
	横揺れは縦揺れのあと、震源からの距離 ÷ 3km = 秒後に来る					
	揺れ具合、情報から地震を①～④タイプに特定し、津波高を推測					
	津波は浮く物が無ければ20cmで死亡率が上がり90cmで100%近くになる					
	津波にはビニール紐付空のペットボトルを腰にくくって全力で逃げる					
	津波に巻きこまれたら、浮く物にしがみつかり特に引き潮の落下状態で離さない					

【BCP個人カード 表 印刷DL用】

南海トラフ地震・津波BCP個人カード
事前準備本人()優先順

南海トラフ地震・津波BCP個人カード
事前準備本人()優先順

南海トラフ地震・津波BCP個人カード
事前準備本人()優先順

南海トラフ地震・津波BCP個人カード
事前準備本人()優先順

指令

指令

指令

指令

南海トラフ地震・津波BCP個人カード
事前準備本人()優先順

南海トラフ地震・津波BCP個人カード
事前準備本人()優先順

南海トラフ地震・津波BCP個人カード
事前準備本人()優先順

南海トラフ地震・津波BCP個人カード
事前準備本人()優先順

指令

指令

指令

指令

南海トラフ地震・津波防災カード

氏名

血液型

	標高	避難先	標高	距離	予想到達時間	津波高	ビニール紐付空
自宅	m		m	・ km	h m	m	個
出先	m		m	・ km	h m	遡上高	個

※標高を調べるには「地理院地図」で検索。

国は次の地震は裏面②のケースの可能性が高いと予測している。

夜の地震発生に備え携帯電話のライト機能を使えるように。

東日本大震災では死因の9割超が溺死。そこでビニール紐付空のペットボトル大を2つ腰にくくって逃げれば浮いて助かる。そして1つは誰かにあげ助ける。

【地震】 第1波（縦揺れ）が大きかったらすぐ外に出て第2波（横揺れ）に対処。地震は何度も起こる可能性が高い。地震火災を防ぐこと。

【津波】 津波火災に備え、高い所に避難。1854年大阪では9m、6m、3mの津波が一晩中何度も襲来。また、犠牲者は殆どが訪れていた人。全国民が南海トラフ津波の危険にさらされている事を銘記すべき。

東日本大震災の規模を1とする。規模はMが0.2上がる毎に倍。

年	南海トラフ地震は規模により①～④に分類	M	規模	震源域	死者2万人のうち9割超が津波による溺死。最大は津波高20m、遡上高40m。
2011	東日本大震災	9.0	1	500km	
① 2千年前	南海・沖縄トラフ	9.5	6	1700km	1500～2000年毎に発生。世界最大級。
② 1707	東海～日向灘	9.1	1.5	700km	大阪だけで1707年、津波で17000人、地震で5000人、1854年数千人が犠牲に。犠牲者は住民以外の訪れていた人が殆どだった。
③ 1854	東海～東南海	8.4	1/8	300km	
③ 1日半後	南海～日向灘	8.6	1/4	400km	
④ 1944	東南海	7.9	1/48	どちらの地震も津波による死者は少ない。1512年と1605年の地震では、徳島県の1地域だけで津波による死者がそれぞれ3700人と1500人だったので、この2つは①～③の巨大地震と分けて考えてよい。	
④ 1946	南海	8.0	1/32		

衛星測位により震源域が伊豆半島の西から東へ移動→関東直撃の可能性が有る。

岡山経済同友会防災・BCP委員会委員長 清水 男 渡した人 ()

南海トラフ地震・津波防災カード

氏名

血液型

	標高	避難先	標高	距離	予想到達時間	津波高	ビニール紐付空
自宅	m		m	・ km	h m	m	個
出先	m		m	・ km	h m	遡上高	個

※標高を調べるには「地理院地図」で検索。

国は次の地震は裏面②のケースの可能性が高いと予測している。

夜の地震発生に備え携帯電話のライト機能を使えるように。

東日本大震災では死因の9割超が溺死。そこでビニール紐付空のペットボトル大を2つ腰にくくって逃げれば浮いて助かる。そして1つは誰かにあげ助ける。

【地震】 第1波（縦揺れ）が大きかったらすぐ外に出て第2波（横揺れ）に対処。地震は何度も起こる可能性が高い。地震火災を防ぐこと。

【津波】 津波火災に備え、高い所に避難。1854年大阪では9m、6m、3mの津波が一晩中何度も襲来。また、犠牲者は殆どが訪れていた人。全国民が南海トラフ津波の危険にさらされている事を銘記すべき。

東日本大震災の規模を1とする。規模はMが0.2上がる毎に倍。

年	南海トラフ地震は規模により①～④に分類	M	規模	震源域	死者2万人のうち9割超が津波による溺死。最大は津波高20m、遡上高40m。
2011	東日本大震災	9.0	1	500km	
① 2千年前	南海・沖縄トラフ	9.5	6	1700km	1500～2000年毎に発生。世界最大級。
② 1707	東海～日向灘	9.1	1.5	700km	大阪だけで1707年、津波で17000人、地震で5000人、1854年数千人が犠牲に。犠牲者は住民以外の訪れていた人が殆どだった。
③ 1854	東海～東南海	8.4	1/8	300km	
③ 1日半後	南海～日向灘	8.6	1/4	400km	
④ 1944	東南海	7.9	1/48	どちらの地震も津波による死者は少ない。1512年と1605年の地震では、徳島県の1地域だけで津波による死者がそれぞれ3700人と1500人だったので、この2つは①～③の巨大地震と分けて考えてよい。	
④ 1946	南海	8.0	1/32		

衛星測位により震源域が伊豆半島の西から東へ移動→関東直撃の可能性が有る。
岡山経済同友会防災・BCP委員会委員長 清水 男 渡した人 ()

